



平成 29 年 5 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社トリプルワン  
(コード番号 6695 TOKYO PRO Market)  
代表者名 代表取締役 塩田 秀明  
問合せ先 業務管理部長 大屋 貴雄  
T E L 03-5614-8181  
U R L <http://www.tripleone.net/>

### 事業計画の概要について

#### 【売上高及び損益計画】平成 29 年 10 月期

(単位：千円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
平成 28 年 10 月期 (実績)	1,011,081	31,155	18,743	9,309	52.77 円
平成 29 年 10 月期 (計画)	1,077,811	22,321	7,234	4,340	24.60 円

#### 【平成 29 年 10 月期業績予想の前提条件】

##### (1) 当社全体の見通し

わが国経済は、企業収益が持続的に改善し、雇用所得・設備投資も緩やかな回復基調にありますが、政府による経済対策等も限定にとどまる見通しや、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の成長鈍化の傾向が継続すると予想され、英国の EU 離脱問題や米国新政府の政策への警戒感などから、依然として先行き不透明な状況が継続すると思われま

す。当業界におきましては、台湾、韓国、中国などにおける半導体製造装置への積極的な設備投資に加え、国内においては、産業機械系、車載系等の分野における電子回路開発や基板調達の需要が期待されます。

##### (2) 個別の前提条件

###### ①売上高

プロダクツ事業においては、設備投資の需要が大きいことから半導体検査装置用部品の出

荷が増えると予想しており、379,950千円（前期比20.5%増）と予想しております。

エンジニアリング事業におきましては、既存顧客の他に新規顧客の開拓を進めることにより、売上高を320,930千円（前期比2.7%増）と予想しております。

システム事業においては主要顧客の製品群が前年同様に推移するとみており、376,920千円（前期比1.7%減）を見込んでおります。

この結果、売上高は、1,077,811千円（前期比6.5%増）を予想しております。

## ②売上原価、売上総利益

平成28年10月期の各事業の売上原価率を考慮して見積もっております。この結果、売上総利益は257,846千円（前期比1.5%増）と予想しております。

## ③販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、平成28年10月期の実績にエンジニアの人的費用の増加や監査費用等を考慮し235,525千円（前期比5.6%増）と予想しております。この結果、営業利益は22,321千円（前期比28.3%減）と予想しております。

## ④営業外損益、経常利益

営業外収益につきましては、平成28年10月期の実績を考慮して見積もっております。営業外費用につきましては、株式公開費用18,500千円を見積もっております。この結果、経常利益は7,234千円（前期比61.4%減）と予想しております。

## ⑤当期純利益

法人税等の2,894千円を控除した結果、当期純利益は4,340千円（前期比53.4%減）と予想しております。

以上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保障するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれらに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他多様な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。